

報 告

コロナ禍における看護学生の国家試験対策学習支援ニーズと課題

長堀智香子, 福田久子, 岡嶋妙子, 埴恵子, 渡部洋子

つくば国際大学医療保健学部看護学科

【要 旨】 本研究の目的は、コロナ禍での看護師・保健師国家試験対策における学生の学習支援ニーズを明らかにし、今後の課題について検討および改善に活かすことである。本学看護学科4年生47名を対象とし、webアンケートを実施した。結果、回収率は40.4%であった。「大学に登校できない状況時の国家対策学習支援ニーズ」に対する回答から得られたカテゴリーは【学習環境の創出・提供】【個別支援】の2つが抽出された。「感染拡大の影響などで、国家試験対策について困っていることや要望」についての回答から得られたカテゴリーは【物理的環境】【人的環境】の2つであった。これらの結果より、以下のような学習支援が必要であると考えた。

- ①学習意欲を上げていくことができるように学生のニーズに可能な限り寄り添い、徐々に学ぶ「場」としての物理的環境の提供
- ②「対話的学び」や「自己効力感」を高めるなど、「内的動機付け」を促す学習支援

キーワード： コロナ禍, 看護学生, 国家試験, 学習支援ニーズ

1. 序論

2020年は新型コロナウイルスのパンデミックという、これまでに経験したことがない危機にすべての国民が直面した。2020年1月15日に日本で初めて新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の発生が報告されてから、感染者数は徐々に増加し、4月7日に緊急事態宣言が発令され、5月25日に緊急事態宣言が全国的に解除された。日本看護系大学協議会が3月～4月

にかけて行った調査では、これまで実施していた講義や演習の内容や方法を変更した大学が50～70%であった(日本看護系大学協議会, online)。本学においては6月1日から一部分散登校が可能になっているが、2020年12月時点では全面的な学生の構内立ち入りは許可されていない。大学に登校できない期間の授業はすべてオンラインで実施されており、国家試験対策についても、例年行っている国家試験に準じた形式での模擬試験や学内教員の対面補講などの計画が方法の変更を余儀なくされ、中止またはオンラインでの実施となった。

オンライン授業は「好きな時間に受講できる」というメリットがあるが、他方、操作に手惑うなど「コンピューターリテラシー」の問題や「うっかりして忘れる」「講師のフィードバックが不満足」などのデメリットがある(山岡他,

連絡責任者：長堀智香子

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋6-8-33

つくば国際大学医療保健学部看護学科

TEL: 029-826-6622

FAX: 029-826-6776

E-mail: c-nagahori@tius.ac.jp

2018)。本学看護学科でも数回、業者の国家試験対策無料オンライン講座の案内を行っているが、利用率は1～2割と低かった。また、学科内の国家試験対策委員会で作成したweb模試を実施したが、2割程度の学生が期限までに解答しない状況であり、自宅で主体的に学習に取り組むことが困難である学生がいることが窺える。看護学生の主体的学習について、看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「自らの力で課題を発見し、解決に向けた対応を学ぶ」課題対応能力を目標のひとつに挙げている（文部科学省 a, online)。学生の主体性を育む学習支援方法としては「グループワーク」や「実習」など少人数での対面指導による報告が多い（新井他, 2011；横山他, 2005)。

今後、新型コロナウイルスだけではなく、同様に大学構内で授業や国家試験の学習支援が行えなくなることも考えられる。また、大学には感染拡大防御のための方策を遵守しつつも、教育を可能な限り推進するという使命がある。2020年2月に文科省は医療関係職種等の学校養成所等に対し、「在学中の学生に不利益が生じることがないように対応すること」を通知しており（文部科学省 b, online)、看護職を養成する大学はどのような状況下であっても、すべての学生が国家試験に合格できるような学習支援を行う必要がある。

本研究では、コロナ禍での看護師・保健師国家試験対策における学生の学習支援ニーズを明らかにし、今後の課題について検討し、今後の教育方法の改善に活かすことを目的とする。

II. 研究方法

1. 対象：本学看護学科4年生 全47名
2. 調査期間：2020年10月16日から
2020年10月23日まで
3. 方法：

回答が容易であること、全学生が操作に慣れていることからwebアンケートとした。回収

率を上げるために質問項目を最小限とした。匿名性が保たれるように性別やメールアドレスなど個人情報は取得しなかった。

4. 調査内容

アンケート項目は以下の5項目とした。

- 1) 構内立ち入り禁止期間中の国家試験対策としての1日の自己学習時間
 - ①なし、②30分以内、③30分～1時間、④1時間～2時間、⑤2時間以上
- 2) 上記期間中に国家試験対策委員会が行った学習支援で役に立ったと思うものは何ですか
 - ①無料web講座の案内、②web模試、③アドバイザー面談、④web教材購入の案内、⑤役に立ったものはない、⑥その他（自由回答）
- 3) 上記期間中に国家試験対策として主体的に取り組んだことはありますか（例：Youtubeの国試対策動画を視聴した）（自由回答）
- 4) 大学に登校できない状況の時、どのような学習支援があったら良いと思いますか。（自由回答）
- 5) その他、コロナウイルスの感染拡大の影響などで、国家試験対策について気になっていることや困っていること、要望などがあれば教えて下さい。（自由回答）

5. 分析方法

分析は各変数について記述統計値を算出した。自由回答式質問に関しては、舟島によるBerelson, B.の方法論を参考に分析した（舟島なをみ, 2007)。回答を一文脈一意味の分析単位としてまとめ、コード化した。コードの意味の類似性と相違性に基づき分類後、整合性を確認しながらカテゴリー・サブカテゴリー化し、質的帰納的分析を行った。分類は信頼性・妥当性を高めるために、全研究者で行った。本文中、【】をカテゴリー、kakko《》をサブカテゴリー、〈〉をコードとして表す。

6. 倫理的配慮

本研究は「ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「個人情報保護に関する法律」及び適用される法令、条例等を遵守して行った。

プライバシーの保護として、質問票は無記名式とした。研究対象者に対し、本研究の目的および方法について、web アンケート送付の際に記載して研究協力を依頼した。調査への協力は自由意思であること、回答しなくても評価などには関係せず、不利益を被ることはないことを明記した。論文での研究結果の公表について協力依頼文書に記載した。質問票への回答をもって研究参加への同意を得たものとした。

データの保管は専用のUSBを用いて、研究室の鍵付き書庫にて保管・管理した。本研究に関して利益相反は無い。本研究は、研究者所属の倫理審査委員会の承認を得て実施した。（承認番号：R02-1号）

Ⅲ. 結果

回収数は19、回収率は40.4%であった。

1. 構内立ち入り禁止期間中の看護師・保健師国家試験対策の学生の現状

質問1の「構内立ち入り禁止期間中の国家試験対策としての1日の自己学習時間」に対する回答は①なし0%（0人）、②30分以内5.3%（1人）、③30分～1時間21.1%（4人）、④1時間～2時間31.6%（6人）、⑤2時間以上42.0%（8人）であった。

質問2の「構内立ち入り禁止期間中に国家試験対策委員会が行った学習支援で役に立ったと思うものは何ですか（複数回答）」に対する回答は①無料web講座の案内15.8%（3人）、②web模試36.8%（7人）、③アドバイザー面談5.3%（1人）、④web教材購入の案内26.3%（5人）、⑤役に立ったものはない21.1%（4人）であった。その他の回答として、「（成績低迷者を学内で学習させる）強化対策」が挙げられた。

質問3の「構内立ち入り禁止期間中に国家試験対策として主体的に取り組んだことはありますか」に対する回答から得られたコード数は11、サブカテゴリーは4、カテゴリーは【参考書・問題集】【オンライン教材】の2つが抽出された（表1）。質問に対して回答が記載されていないのは8人（16.2%）だった。

表1. 構内立ち入り禁止期間中に国家試験対策として主体的に取り組んだこと

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
参考書・問題集	問題集を解く	参考書を解く
		過去問を解いていた
		国試の過去問を解き、間違えた問題をレビューブックやルーズリーフにまとめた
		必修問題のアプリ
		必修を深掘りした
		問題集に取り組んだ
		QB（問題集）の活用、模試の振り返り
	参考書見直し	レビューブックや教科書の見返し
オンライン教材	動画	国試対策動画視聴
		国試対策動画の視聴
	web模試	web模試を行った

2. 構内立ち入り禁止期間中の看護師・保健師
国家試験対策における学習支援ニーズ
質問4の「大学に登校できない状況の時、どのような学習支援があったら良いと思いますか」に対する回答から得られたコード数は11、サブカテゴリーは3、カテゴリーは【学習環境の創出・提供】【個別支援】の2つが抽出された（表2）。質問に対して回答無しは10人（52.6%）だった。

質問5の「その他、コロナウイルスの感染拡大の影響などで、国家試験対策について気になっていることや困っていること、要望など」についての回答から得られたコード数は11、サブカテゴリーは4、カテゴリーは【物理的環境】【人的環境】の2つが抽出された（表3）。この質問に対して回答の記載がなかったのは11人（57.9%）であった。

表2. 構内立ち入り禁止期間中の学習支援ニーズ

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学習環境の創出・提供	学習機会の創出	ネットでの国家試験に出やすい部分などの集中講義
		レビューブック等で不足している箇所の補足資料配布
		国試講座を秋季講習のときみたいにやってほしい
		模試の回数を増やすこと
		頻出問題などの対策のために使える問題集を作成していただきたかった
	物理的環境の提供	図書館利用、学校の利用
個別支援	個別支援	個別対応
		一人一人のステップアップしやすい何か（現在の目標の提示以外で）を一緒に探してくださる支援
		一人一人のステップアップしやすい何かを毎日や1週間など短い期間で確認し、継続や向上心に繋げる支援（月単位だと忘れてしまったり気持ちが長続きしないことがあります。）
		アドバイザーとの面談
		参考書の活用方法

表3. 国家試験対策について気になっていることや困っていることや要望

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
物理的環境	物理的環境	コロナの影響で構内使用制限があるのが不便
		家にいると勉強に集中できないので、登校時間や下校時間は各自自由にして、勉強する場所（教室など）を提供してほしい
		図書館が気軽に使えない
		家で集中して勉強出来ないなので、自習室としての場所が欲しいと思いました
人的環境	友人	友達と切磋琢磨しにくい環境などであることから国家試験に受かるのか、この勉強方法で良いのかと不安に思う
		他の人がどのような方法で勉強をしているのか気になった
	対面指導	例年とは違う学習方法（登校して先生に直接ご指導頂くことができない）
		領域別の質問が気軽に質問できる状況ではない
		対面授業を行って欲しい
	情報	情報
情報・対応が遅い（例：1月までの各模試の日程一覧の提示等）。		

IV. 考察

1. 物理的環境「場」のニーズ

2020年2月27日、新型コロナウイルス感染拡大のため、文部科学省により国都道府県教育委員会などに対し、学校保健安全法に基づく臨時休校が通知された。これを受けて全国図書館協会は、閉館するかどうかの選択は、各都道府県知事の要請を踏まえて適切に対応するとしながらも、利用者が来館することなく受けられるサービスの提供を目指すことが望ましいとし、オンラインでの貸し出しサービスやレファレンスサービスの推奨を明示した（日本図書館協会 a,b, online）。本学図書館においては、6月1日よりオンライン期間中の送本貸出を開始し、15冊までのオンライン貸出が可能となった。これによって学生は、コロナ禍で図書館利用ができない状況下であっても、学習に必要な本を借り入れることが可能である。しかし、本調査では、表3【物理的環境】《物理的環境》の4つのコードより〈図書館が気軽に使えない〉という学習ニーズが明らかになった。つまり学習するための本など「物」の提供よりも、学習するための「場」の提供を要望する結果となっている。

内閣府が行った（学生）教育・学習に対する意識、その内容（インターネット調査・学生1,035人対象）では、新型コロナウイルス感染拡大前に比べてどのように教育・学習に変化があったか質問している。この結果75.6%の学生が、教育・学習環境の重要性を意識するようになったと答えている（内閣府, online）。これは日常の中で登校することが当たり前となっている学生にとって、「構内に立ち入ることが出来ない」という特別な状況が、学習する物理的な「場」を改めて意識するようになったものと考えられる。古橋（2014）の大学生の学習場所・時間・形態に関する実態調査では学生の学習時に重視する空間的要素として“集中できる、地理的に便利、静か”であることが条件に挙げられ、9割以上の学生が“大学図書館では

集中できる”と認識しており、最も利用時間の多い学習場所は“自宅”であると回答する一方で、約3割の学生は“人がいないと怠けてしまう、一人は寂しい、家では遊んでしまう、家にはベッドがあるから危険”といった理由により“自宅では集中できない”ため、大学施設を利用していた。本学においても【物理的環境】にあるように〈家で集中して勉強できない〉ことを理由に、図書館などの大学施設の利用を要望する学生は少なくないことが推測できる。本調査の結果は、新型コロナウイルス感染拡大予防下における教育の現状として、集中して学習したい学生の物理的環境を含めた学習意欲への支援が損なわれている可能性を示唆するものである。このため、当たり前のように登校していた学生にとっては、大学施設で集中して学習したいというニーズがあっても「構内に立ち入ることが出来ない」という現状が、入れる「場」があるのに入れないという今まで考えもしなかった、或いは今まで感じたことのない新たなジレンマを生み、学ぶ意欲を低下させていくものと推察される。

我が国において、コロナ禍がもたらした社会生活は、3密を避けるために、戸外への外出自粛、ソーシャルディスタンスによる非接触、テレワークやオンライン教育など劇的に人との関わり方が変化してきている。人との接触をできるだけ避けるための新たな社会規範が構築されつつある社会情勢において、教育もまた学生との関わり方を見直していかなければならない変換期にあるのだろう。

令和2年度大学の後期授業実施方針において、対面授業を開始した大学は、国立大学3校（35%）、公立大学10校（9.8%）、私立大学160校（19.6%）になっている。対面・遠隔を併用する大学は、849校で実に全体の80.1%にも及ぶ。その中でも大学の施設使用状況は、すでに全面的に可能な大学は全体の33.9%、一部の使用が許可された大学は全体の65.7%となっている（文部科学省 c, online）。新型コロナウイルス感染拡大状況にもよるが、オンライ

ンによる遠隔授業は今後も増加の一途を辿るものと予想される。しかしその一方で、本学のように演習を含む技術を教授しなければならない医療系大学では、一部対面を取り入れた遠隔授業が主流となるものと推測できる。しかしながら、「大学教育においては学生同士の交流や学生と教職員の間の人的な交流なども重要な要素であり、大学等の規模や施設の条件、授業内容・手技等の実情に合わせて検討頂きたい」との通達があるように（文部科学省 d, online）、今後、各大学独自で感染防止対策を講じながら、学習意欲を上げていくことができるように学生のニーズに可能な限り寄り添う必要がある。しかし、コロナ渦にあって「構内に立ち入ることが出来ない状況」では、オンラインを利用した仮想教室のような新たな疑似的環境としての「場」の提供を整備していかなければならない。

2. 人的環境「内発的動機付け」のニーズ

1) 主体的・対話的学びの支援

構内立ち入り禁止期間中、対面授業がすべてオンラインとなり、物理的や技術的な理由からディスカッションやグループワーク形式の授業は減少したと思われる。このため学生は表3にある〈領域別の質問が気軽に質問できる状況ではない〉〈例年とは違う学習方法（登校して先生に直接ご指導頂くことができない）〉と感じているのではないだろうか。質問などはメールやオンラインでの同時双方向授業の際にも聞くことは出来るのだが、そのような質問形式をメリット・デメリットの両方に感じる学生がいることから（山岡他, 2018）、〈気軽に質問できる状況ではない〉と困難を感じていると考える。《友人》のコードにある〈友達と切磋琢磨しにくい環境などであることから国家試験に受かるのか、この勉強方法で良いのかと不安に思う〉〈他の人がどのような方法で勉強をしているのか気になった〉という回答は、これまでは受動的に他者の行動（例えば、他の学生の学習状況など）を把握できていたが、対話的な授業が減ってしまい、自ら能動的な行動をとる積極性や

きっかけが得られずに、困難が生じているのではないかと考える。また、友人関係に対する自律的な動機づけは向社会的行動や自己開示など友人に対する積極的な働きかけを促すことが明らかにされていることから（岡田, 2006）、学習場面においても一人で課題を解決しようとするより、友人との協同的な課題解決を求めると考えられる。しかし、授業がオンラインになり、国家試験対策のための学習も自宅学習が中心となってしまい、友人との協同的な課題解決が直接的に図れなくなったため〈友達と切磋琢磨しにくい環境〉と回答しているのではないかと考える。

文部科学省は、「大学における教育はオンライン等を通じた遠隔授業の実施のみで全てが簡潔するものでなく、豊かな人間性を涵養するうえで、直接の対面による学生同士や学生と教員との人的な交流等も重要な要素である」と明記し（文部科学省 c, online）、コロナ禍での大学における人的環境の支援努力を求めている。しかし、構内立ち入り禁止により直接の対面ができない状況でも、国家試験対策における学習はオンライン上で少人数のグループワークやグループトークの時間を設け、情報交換や意見交換を促すこと、対話的な行動の「きっかけ」を支援者側が作ることにより、直接的な対面ではなくても「対話的学び」を高める支援をすることで「内発的動機付け」を促すことができると考える。

2) 自己効力感を高める支援

表2の結果で具体的にニーズが記載してある〈一人一人のステップアップしやすい何かを毎日や1週間など短い期間で確認し、継続や向上心に繋げる支援〉に挙げられた〈継続や向上心に繋げる支援〉が、他のコード〈個別対応〉〈アドバイザーとの面談〉にも関連しているのではないかと考えた。

大島は、eラーニング環境において自己制御学習が、学習効果をより顕著に左右すると報告している（大島, 2008）。自己制御学習とは、「学

習自身が動機付けや学習スキルを高めることによって、自らの学習を積極的かつ前向きにコントロールしていく学習活動である」と定義されている（北澤他，2006）。学生が自らの学習をコントロールする自律的な学習について、中本らの報告では「自己効力感の高い学生は動機づけを維持して学習を継続させ、課題を達成することによりさらに自己効力感が高まることになる。その自己効力感の高まりがさらなる知識の獲得や学習行動を促進させ、自律的な学習へと繋がっていく」と述べている（中本と石田，2016）。また、自己効力感とは「簡単に言うと、『自分は、その行動をうまくやることができるんだ』という自信のこと」である（松本，2010）。表3にある〈この勉強方法で良いのかと不安に思う〉という「不安」も、自己効力感が影響していることが考えられる。「実習前の看護学生の状態不安は高いが実習後は低下していること、実習後の状態不安が低い学生は実習の達成感や看護実践への自己効力感が高い傾向にある」（櫻井他，2018）ことから、国家試験対策の学習において実施前や学習途中は「不安」が高くても、国家試験模擬試験などの成績が上がることや教員が学習方法を承認していくことで自信につながり「不安」が低下していくと考えられる。

学生にとって国家試験対策は大きな課題であり、最後まであきらめずに課題に取り組むことができるための学習支援を求めていると思われる。直接対面による支援が困難であれば、新たな「場」を活かしながら、学生に必要な「対話的学び」や「自己効力感」を高めることにより「内発的動機付け」を促すための支援体制を構築していく必要があると考える。

本研究の限界として、回収率が40.4%であり、全体的な意見の集約が出来ていないため、結果が限定的である。また、アンケート実施時期は、一部、構内立ち入りが可能になった時期であり、緊急事態宣言時のような、構内立ち入りが全くできない状況下でのニーズとは言い切れない。

V. 結論

本研究では、コロナ禍での看護師・保健師国家試験対策における学生の学習支援ニーズを明らかにし、今後の課題について検討した。結果、以下のような学習支援が必要であると考えられる。

- ① 学習意欲を上げていくことができるように学生のニーズに可能な限り寄り添い、徐々に学ぶ「場」としての物理的環境の提供
- ② 「対話的学び」や「自己効力感」を高めるなど、「内的動機付け」を促す学習支援

文献

- 新井清美，竹内久美子，木暮孝志，林美奈子，石光美美子，古谷剛，小澤麻美（2011）看護学生の主体性に関する文献研究—主体性を育む教育方法を考える—。目白大学 健康科学研究. 4:69-75.
- 大島純（2008）最近の認知研究からみたe-ラーニングの可能性教育。心理学年報. 47:178-187.
- 岡田涼（2006）自律的な友人関係への動機づけが自己開示および適応に及ぼす影響。パーソナリティ研究. 15(1):52-54.
- 北澤 武，加藤 浩，赤堀 侃司（2006）小学校理科e-ラーニングサイトの評価と自己制御学習傾向との関係に関する調査研究。科学教育研究. 30(2):78-87.
- 櫻井美奈，中原るり子，岸田泰子，荒木亜紀，西崎未和（2018）看護系大学生の領域別実習における不安、達成感、自己効力感の関連。共立女子大学看護学雑誌. 5:7-15.
- 中本亮，石田智恵美（2016）自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴—自由記述をコレスポネンダ分析して—。福岡県立大学看護学研究紀要. 13:67-74.
- 内閣府ホームページ：新型コロナウイルス感染症の影響下における生活、意識・行動の変

- 化に関する調査。
<https://www5.cao.go.jp/keizai2/manzoku/pdf/shiryo2.pdf>(閲覧日:2020年11月9日)://
- 日本看護系大学協議会ホームページ:
<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/04/coronavirus-cyousakekka2nd.pdf>(閲覧日:2020年11月19日)://
- 日本図書館協会ホームページ a: 新型コロナウイルス感染症による学校休校にかかる図書館の対応について。
<https://www.jla.or.jp/home/tabid/36/pageno/5/Default.aspx>(閲覧日:2020年11月9日)://
- 日本図書館協会ホームページ b: 図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン。
<http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/content/information/gaidoline-corona0514.pdf>(閲覧日:2020年11月9日)://
- 舟島なをみ(2007) 質的研究への挑戦 第2版. 医学書院, 東京. pp51-80.
- 古橋英枝(2014) 大学生の学習実態に基づく大学図書館の役割, 三田図書館・情報学雑誌. 72:95-121.
- 松本千明(2010) 健康行動理論の基礎, 医歯薬出版株式会社, 東京, p15-18.
- 文部科学省ホームページ a.: 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～: 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf(閲覧日:2020年6月30日)://
- 文部科学省ホームページ b.: 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について。
https://www.mext.go.jp/content/20200302-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf(閲覧日:2020年10月28日)://
- 文部科学省ホームページ c.: 大学等における本年度後期の授業実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について(周知)。
https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf(閲覧日:2020年11月9日)://
- 文部科学省ホームページ d.: 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療機関系職種等の各学校、養成所および養成施設の対応について事務連絡。
<https://www.mhlw.go.jp/content/000636146.pdf>(閲覧日:2020年11月9日)://
- 山岡泰幸, 青木久美子, 高橋秀明, 清水仁(2018) 放送大学オンライン授業科目における未修了の原因および修了者の不満要因の定量的および定性的研究, 放送大学研究年報. 36:127-137.
- 横山孝子, 大澤早苗, 嶋井久美子, 高水佳寿美(2005) 学習過程の分析からみた学生の主体性の形成に関する一考察. 保健科学研究誌. 2:59-68.

Report

Learning support needs of nursing students for the national exam during coronavirus pandemic

Chikako NAGAHORI, Hisako FUKUDA, Taeko OKAJIMA,
Keiko HANAWA, Yoko WATANABE

Department of Nursing, Faculty of Medical and Health Sciences, Tsukuba International University

Abstract

This study aims to clarify the learning support needs of nursing students who are to take the national exam during the coronavirus pandemic, as well as to consider improvement measures. A web questionnaire was administered to 47 fourth-year students in the Department of Nursing at our university. The response rate was 40.7%. Two categories “Provision of Learning Environment” and “Individual Support” were extracted from the question on “needs for learning support for national exam.” In addition, other two categories “Physical Environment” and “Human Environment” were obtained from the question on “problems and requests regarding national exam learning due to the coronavirus pandemic.” Therefore, we consider that the following learning support is necessary in the pandemic:

- (1) Providing a physical environment as a space to learn by being as close as possible to students psychologically so that they can motivate themselves to learn
- (2) Providing learning support that encourages “internal motivation” such as enhancing “interactive learning” and “self-efficacy”.

Keywords: coronavirus pandemic, nursing students, national exam, learning support needs